



関西支部活動トピックス (7~9月)

関西支部

部品運営委員会フィリピン開催

8月23日(木)~25日(土)

部品運営委員会(委員長:ローム(株)・澤村諭社長)では、上記日程でフィリピン・マニラ地域にミッションを派遣した。同委員会では、毎年、東・東南アジア地域を視察し、各国と関係を深めているが、フィリピンへのミッションは初めてとなる。以下の各所で意見・情報交換を行い、メーカー2社では製造現場も見学した。また、24日の夕食会ではそれぞれの幹部を招いて交流を深めた。

・フィリピン経済区庁(PEZA)ならびにフィリピン半導体・電子産業協会(SEIPI):23日午後



PEZAのデ・リマ長官より挨拶の後、フィリピンの経済状況や投資環境につき説明があった。268

の特別経済区では100%外資でも事業が可能で、投資は拡大している。国別では日本、セクター別ではエレクトロニクスがトップを占める。SEIPIのサンチアゴ会長からは同協会の紹介があった。同国最大の電子部品・機器業界団体で、WTOの対応や環境課題ではJEITAとも協調している。フィリピンの輸出は6割以上がエレクトロニクス関連で、政府への発言力も大きい。

・IMI(Integrated Microelectronics, Inc):



24日午前
グレセンス副社長より挨拶の後、概要が説明された。フィリピン最大のEMS企

業で、アジア、北米、欧州の11ヶ所に生産拠点をもち、コンピューター、通信、自動車、医療の各分野で日欧の大手電機メーカーから生産を受託している。車載カメラモジュールやHDD等のラインを見学した。日系メーカーの生産・品質管理手法を取り入れ、独自のシステムが構築されている。

・Honda Cars Philippines, Inc:24日午後 デグズマン副社長より挨拶の後、概要が説



明された。操業開始は1990年で、現在は540名の従業員が年間1万台強のシティ(全てフィリピン国内向け)を生産している。組立・溶接・検査工程を見学した。フィリピンの四輪市場は16万台/年と小さく、現状の生産量では自動化が難しい。作業はすべて手作業で、ものづくりの基本を忠実に実行している。

・JETROマニラ事務所:24日午後



伊藤所長よりフィリピンのビジネスチャンスについて説明を受けた。1960年代はアジアの優等

生であったが、独裁や汚職で負のイメージが強まり、サービス業優遇の政策もあって、他のアジア諸国に遅れを取った。アキノ政権になってマイナスイメージが払拭され、政策も鉱工業重視に変わった。昨年の震災以後はリスク分散の観点からも注目され、キヤノン、ブラザー、富士フイルム等日系大手の進出が続いている。

2012技術セミナー「日本エレクトロニクスメーカーの再生」

9月14日(金)大阪歴史博物館

わが国製造業を取り巻く状況が極めて厳しい中、関西IT・ものづくり技術委員会では、打開の糸口を見出すべく「日本エレクトロニクスメーカーの再生」をテーマに「2012技術セミナー」を開催した。プログラムは次の通りである。

- 開会挨拶
関西IT・ものづくり技術委員会委員長(シャープ(株)) 佐藤仁一
- 講演「日本企業の管理会計システムの課題ーコストマネジメントと組織業績管理を中心として」

神戸大学大学院 経営学研究科 教授

松尾貴巳氏

- 講演「新興国に於ける家電企業の姿に見る日本家電の現状と復活のために！」
エムジェイアイ（株）代表取締役
前田 悟 氏
- 講演「FPD 業界の見通し、FPD からみた TV、PC、携帯・スマートフォン市場と勝者の条件」
ドイツ証券（株）シニアアナリスト
中根康夫 氏

開会挨拶では委員会の活動内容とセミナーの開催趣旨を紹介した。神戸大学・松尾教授からは、日本的コストマネジ



メントが果たして来た役割・意義と今後の課題が解説された。バブル経済の崩壊後、カンパニー制等の分権型組織管理や、株主価値を重視した業績管理の導入が進んだが、定量的な指標のみを重視する管理システムが機能不全を起こしていることは明らかである。各企業の組織文化や経営構造も踏まえ、バランスの取れたコントロールを図る必要がある。エムジェイアイ・前田氏は、電機メーカー技術者としての経験から、グローバル市場における日本メーカーの不振について円高等の外部要因や経営手法の誤りばかりが言われるが、本質的な課題は、ユーザーを引き付ける商品を産み出

せない点にあると強調された。真に魅力的な商品の開発に向け、マネジメントや現場の技術者が腰を据えて取り組むことが強く期待される。ドイツ証券・中根氏の講演では、FPDの需給に関する各種データが詳細に分析された。TV、PC、携帯の垣根が下がることで、CPU・OSの有力メーカーがそれぞれ他の分野に進出し、フィールドを越えた競争が激化する。今後、技術が進むに連れてモバイル機器の存在感が増して行き、そこで勝ち組になることがますます重要となる。

当日は約170名の参加があり、アンケートでは5点満点で平均4.21とたいへん高い評価が得られた。

神戸大学における「JEITA 関西講座」

産学連携分科会では、4月から7月にかけて、神戸大学大学院工学研究科電気電子工学専攻（博士前期課程）にて「JEITA 関西講座－企業における研究・開発プロセスの実際」を開講した。スケジュールと講義テーマは下表の通りで、講師は支部会員各社より派遣いただいた。神戸大学での開講は7年目で、毎年60名を越える学生が受講する人気講座であり、同研究科 HP でも「特色のある科目」として紹介されている。各講師には専攻長名で感謝状が贈られる等、大学側からも高い評価を受けている。

月日	テーマ	担当
4 11	ガイダンス	—
18	液晶ディスプレイの開発	シャープ（株）
25	IT・エレクトロニクス産業の変遷と知価社会への展望	JEITA 関西支部
5 9	船用衛星通信の技術動向について	古野電気（株）
16	社会を支える防犯カメラの実際	TOA（株）
23	EV用充電装置の開発	ニチコン（株）
30	企業における研究開発（電子部品の開発を中心として）	（株）村田製作所
6 13	DVD プレーヤ/レコーダの開発（機能の向上とコストダウンの両立）	三菱電機（株）
20	家庭用燃料電池の開発	パナソニック（株）
27	バイオセンサの開発と商品化	パナソニック（株）
7 4	医用機器の開発について	（株）島津製作所
11	ビジョンと技術マネジメント	JEITA 関西支部
	以後随時、講師インタビュー	全社